

対策を練る

傾向に対策

安易な判断が大きな代償に

最近では、自立した生活を送る元気な高齢者が増えています。小林市も同様ですが、高齢化とともに高齢者による交通事故も増加。高齢からくる、判断力の低下や注意力の低下の原因があげられています。

体の変化を自覚

人は誰でも年を重ねると体力が衰えてしまいます。変化には個人差がありますが、それを自覚し、慎重な運転を心がけましょう。

高齢者講習を活用

運転の際は、慎重に確実に安全を確認してください。加齢によって視力が落ちる、耳が遠くなる、とつさの行動が取れなくなるなど身体能力が低下します。このことで標識や表示、危険を見落としてしまい、事故を起こす場合があります。

また、疲れたら早めに休憩を。運転中に疲れを感じたら、眠くなる前に早めに休みましょう。体調が良くないときの運転も避けましょう。

自らの意志で防げる「飲酒運転」や「てげてげ運転」。大切な人を被害者にも加害者にもしないために、愛する人が命を奪い、奪われないために。

てげてげ運転追放

県内の交通事故における原因の約7割は「てげてげ運転」。ちょっとした気のゆるみが事故につながります。運転時は緊張感をもち、わき見、ぼんやり運転はやめましょう。また、眠気や疲れを感じたら運転を止めて休憩を。運転中に携帯電話など他のことをしてはいけません。そして、道路の状況に応じて「かも知れん運転」を心がけましょう。これは、自動車だけではなく、自転車でも同様です。

飲酒運転根絶

飲酒は運転に必要な視覚、聴覚、運動機能、判断力や注意力を低下させます。すると横断中の人に気付かず、ブレーキが遅れることなどが考えられます。飲酒運転の悪質・危険性について理解を深め、飲酒運転を許さない環境づくりに、取り組みましょう。

INTERVIEW



小林市交通安全協会
小林支部長
内幸さん

車は人が運転するもの。ですから、交通事故は人災といえます。死亡事故は、突然奪われる命が奪われる悲しい事件。ルールやマナーを守れば防げるものです。ドライバーの皆さんにはこのことを強く肝に銘じてほしいです。私は10年ほどボランティアで交通安全について取り組んでいますが、短期間で死亡事故が多発しており胸を痛めています。事故は決して他人事ではありません。これからも死亡事故ゼロを目指して、呼びかけていきたいです。

INTERVIEW



高齢者講習に参加
籠正雄さん

年を重ねてくると視力の低下などを実感することがありました。今日受講した高齢者講習で運転してみると、俊敏にできていたと思っていても、判断が遅くなっていることに気づきました。自動車は毎日運転していますが、講習で学んだことや講師に指摘された点を気をつけようと思います。

参加者の感想

Photo Sketch

高齢者講習

野尻町三ヶ野山にある梅田学園小林自動車学校では高齢者講習を開催。運転に必要な視力や技術について自分の状態を確認できます。1 運転に必要な技術を確認できる 2 自分の動体視力や視野の広さをチェック

◆問：梅田学園小林自動車学校

TEL 44-0271



INTERVIEW



小林市交通安全協会
指導員
大久津ゆみさん

私たちが交通安全協会は、65歳以上の皆さんの家を訪問し、高齢者の事故の特徴をもとに交通安全について説明しています。普段使う交通手段にあわせて、歩行者や電動車の人は、反射素材のシールを配り、靴や杖などに貼らせてもらっています。最近特に、高齢者が関わる重大事故が多く残念です。年を重ねると、体のさまざまな部分が衰え、運転が難しくなることもあります。地域での集まりなどに参加し、交通安全教室などを開くこともできるので、ぜひ声をかけていただき、交通安全について学んでもらえればと思います。また、年に一度、地区ごとに法令講習を行っていますので、ぜひ参加ください。

INTERVIEW



小林市交通指導員
平川軍二さん

交通指導員を30年務めています。交通量の多い南町の交差点で子どもたちの安全を見守っていますが、私が立つ時間では、一度も事故はありません。しかし、危ないと思う場面は多くありました。その時は警笛を強く鳴らします。ですから、笛は常に手に持ち、いつでも鳴らせるようにしています。全国では、子どもが巻き込まれる痛ましい事故が続いており、知るたびに悲しい気持ちになります。交通事故は一人一人がルールを守れば防げるものだと思います。私もハンドルを握る一人として、そのように考え運転しています。これからも子どもを見守っていきたくて活動していますが、そういった活動をしてくれる人が続いてくれたらと思います。

Photo Sketch

交通安全キャンペーン

5月16日、交通死亡事故非常事態宣言の発令を受けて、警察や交通安全協会が啓発キャンペーンを実施。ドライバー一人一人にチラシとグッズを配布し交通安全を呼びかけました。3 笑顔でドライバーに呼びかけ 4 キャンペーン参加者は約40人

